

## 基調講演

高村ゆかりさん 東京大学 未来ビジョン研究センター教授



## 2050年カーボンニュートラルに向けて—よりよい未来に向かう地域づくり

近年大規模な災害が頻発していると感じる方が多いのではないのでしょうか。こうした災害が、どれぐらい私たちが排出する温室効果ガスにより生じているかが、ここ数年で定量的に示せるようになってきています。今のペースで温室効果ガスを排出し続けると、早ければ2030年頃には気温上昇が1.5℃に達するおそれがあります。

ありたい未来の社会の形を示し、社会の課題や必要となるイノベーション・変化を明確にする重要な役割を担っているのが、国際的な長期目標です。パリ協定の努力目標である1.5℃の気温上昇にとどめるためには、2050年頃に二酸化炭素排出量を実質ゼロとする必要があるとされています。世界中でカーボンニュートラルに向かう流れが強まっており、日本でも昨年の10月に菅総理が2050年に脱炭素社会の実現を目指すことを表明しました。しかし、今の対策の水準では目標は達成できません。エネルギー、建築物、交通など、あらゆる仕組みの変革が必要です。

企業では、サプライチェーン全体での排出削減やESG投資の動きが加速しており、経営方針の中に気候変動対策を組み込むことが求められています。一方、再生可能エネルギーによって新たな雇用創出や災害時のレジリエンス向上等、地域課題の解決に繋がった事例もあります。気候危機の中での地域づくりの議論が深まることを期待します。

(講演一部/要約抜粋)

## パネルディスカッション

〈コーディネーター〉 **原田麻里子さん** (一社)Think the Earthコーディネーター



## 事例報告



■ **小林正明さん** 中間貯蔵・環境安全事業(株) 代表取締役社長

SDGsもパリ協定も、先進国と途上国が同じ大きな目標に向かうもの。SDGsを日本的に咀嚼した「地域循環共生圏」がこれからの取組のキーワードになる。「若者を育て、若者に刺激を受けて大人が目覚める」、これがSDGsを支えていく大きな力になると期待。



■ **片山健也さん** 北海道ニセコ町長

SDGsの考えに通ずる「相互扶助」をキーワードに、ニセコ町は2050年までにCO2を86%削減するため、SDGsの視点を入れたニュータウン造成や、高断熱・高気密で環境負荷の少ない役場庁舎の新築などの取組を住民とともに進めている。



■ **菅沼利和さん** おひさま進歩エネルギー(株) 代表取締役

環境問題を後世に残さないために、再生可能エネルギーを地域でつくり、それを地域づくりに役立てていく取組として、多くの地域とも連携しながら太陽光発電を推進している。また、飯田自然エネルギー大学を創設し、環境学習にも力を入れる。今後10年間で飯田下伊那地域の電力の半分を自然エネルギーで賄いたい。



■ **藤川まゆみさん** NPO法人上田市民エネルギー理事長

屋根オーナーと出資者を繋ぐ「相乗りくんプロジェクト」による太陽光発電の拡大や、省エネを普及する断熱 DIYプロジェクトを進めるほか、持続可能なまちづくりの活動にも取り組む。市民のアクションは規模が小さくとも社会に向けた意思表示として大きな力を持つ。

## パネルディスカッション

**原田** 気候変動対策の取組について、長野県にどんな印象をお持ちか

**小林** 全国の中でも先進的で意欲的な県。知事の強い熱意、横断的な組織、そして新しいことに積極的な県民性が要因だと思います。他の自治体には、長野県を参考にしつつ、よいライバルを目指してほしいです。

**原田** 気候変動への世代別の受け止め方の違いは

**菅沼** 中学生や高校生は、気候変動の影響が自分の身の回りでも起きていることをよく理解しています。上の世代も身近な影響を感じていますが、このままではさらに影響が大きくなるというところまでは実感できていないようです。

**原田** 「相乗りくん」に関して、この10年間の情勢の変化は

**藤川** 最初は認知度も低く、意識の高い人が参加するものだと思われることもありましたが、今は気軽に参加する方が増えています。

**原田** SDGsは「こんな未来にしたい」という大きな共通目標。将来世代に繋ぐための取組や感じたことは

**藤川** 長野県白馬高校では、高校生が自ら教室の断熱ワークショップを開催し、それを大人たちが手伝っています。学校から講師を依頼されることも増えました。気候変動は教育の中でも大きなテーマになっていると感じます。

**片山** 高校生のSDGs国際未来会議を開催しています。若者が、SDGsや環境問題に関心を持って取り組む環境を自治体や政府が整備をすることが重要だと思います。

**原田** 先進的なまちづくりをどのように進めているか

**片山** 町としてはSDGsや環境政策を進める「第二役場」として(株)ニセコまちを設立したほか、先駆自治体の取組からも多くを学んでいます。環境改善の取組は、次世代の子どもたちのための楽しい作業。皆さんの地域を想う力で動いています。

**原田** 市民の力で太陽光発電を広げる際の課題や解決方法は

**菅沼** 全国からファンドという形で資金の応援をいただいたほか、屋根もタダ同然で貸してもらするなど、多くの方に支えられてきました。また、電力の小売り会社を立ち上げ、電気の地産地消を進めていますが、他の電気との違いが浸透せず、苦戦しています。

**原田** 気候変動に関する行政と住民の関係性はどうか

**小林** 気候変動対策には壮大な変革が必要。国や政府だけではできません。パリ協定の中でもパートナーシップは大きな要素で、自治体、NPO、市民等にどれだけ広がるかが課題です。SDGsや地域循環共生圏について自由に議論できる場が広がるのが大切だと思います。

**高村** 皆さん、将来の世代に地域を引き継いでいくためには気候変動問題の解決が必要だという強い思いが共通しているなと思いました。

(ディスカッション要約)

